

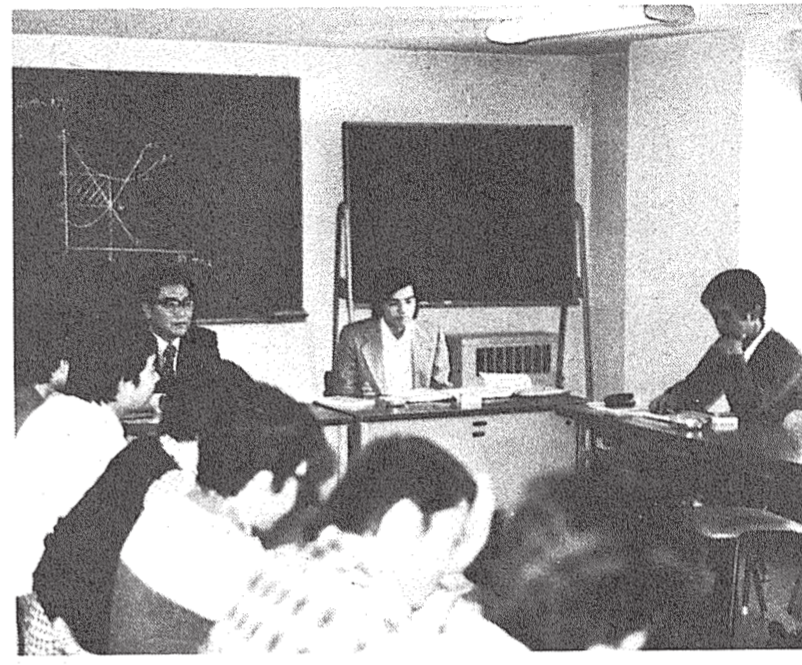


# カリキュラムの特色

## 自主的判断により 科目選択を

法務部 本浪章市

法務部(法学部)の特色は、学生が自主的に科目を選択できることにある。これは、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。



この特色は、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。また、学生は、自分の興味のある科目を選択できるという点も、大きな特色である。

## カリキュラム改正 の特色

経済学部 重田晃一

カリキュラム改正の特色は、学生が自主的に科目を選択できることにある。これは、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

## 演習に向けて 重点的に履修を

商学部 飯野春樹

演習に向けて重点的に履修をするためには、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

## 事実を正確に認識 するための基礎訓練

社会学部 本庄良邦

事実を正確に認識するための基礎訓練は、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

## 実験、実習、卒業 研究が大きな役割

工学部 前田春典

実験、実習、卒業研究が大きな役割を果たすためには、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

# 総合コース について

## 多角的視野を養う 学問のジャンルを超えて

文部部長 大庭 脩

教壇部長 田中昭平

総合コースの特色は、学問のジャンルを超えて、多角的視野を養うことにある。これは、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

## 多様な文化の行方

テーマ代表者 中農 晶三

多様な文化の行方は、現代文化と未来をテーマとして、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。



## 差別解消に向けて

テーマ代表者 部落解放論 小山 仁示

差別解消に向けては、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。

## 各分野からの研究

テーマ代表者 都市論 野々村五四男

各分野からの研究は、都市論をテーマとして、学生が自分の将来の進路を自分で決め、それに合わせて科目を選択できるという点にあり、これは、他の学部と比べて、非常に大きな特色である。



# Welcome to KANSAI UNIV.

## 千里山 天六

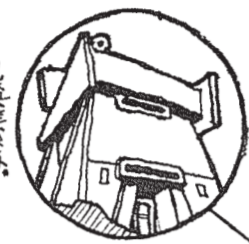
千の加山雄三が著大橋シリスで使用した丸が自慢。池有り、噴水あり、一歩おれ、湯ら着いた敷築コースです。

繁華街に位置する関大天六学舎(第2部)。ここに通学する学生は遊ばずには事欠かない。でも勉学に対する情熱は1部生に、勝ることも少ないのだ。

designed by Art design group

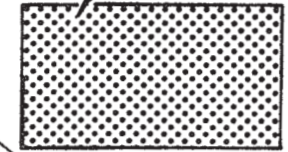
### 特別講堂

本日の映画から落語、つかこうへいの演劇まで盛りだくさんのイベントが催され、手頃な立派な関大の講堂といつても可い。

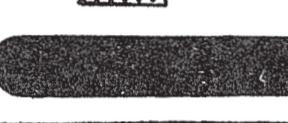


関大は一番大規模な学部一年中実験に追いつける最新の学部もある。

### 工学部 研究棟



### 特別講堂

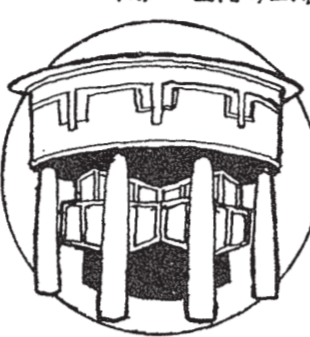


### 工業技術研究所



### 専門図書館

経、工の専門図書は27万冊。本館に似て他校の学生も出入りし続けている。



最近、女子が増えたと成長株の学部。関大の中では一番就職率を誇っている。

### 経・商

経済学部研究室  
経済政治研究所  
社会学部研究室

### 大学プール



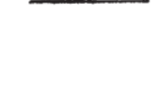
### 展望台



難い座敷の悲しさを下を歩くと一度も正門をくぐらない日があるから要注意。

### 正門

### 尚志館 (西村食堂)



### 診療所

保健証と学生証があれば、夕方7時のみならず精神的な相談にも乗ってくれる。定期診断以外にはも車庫に利用しよう。



### 第1クラウンド

キャンパスの中心に位置するクラウンドは、みんなに開放された大きなスペースだ。スタンプに際色あざれば、関大の全貌が見られ、色々な試合の観戦も出来る。



食事から、文具、書籍まで幅広いの物ならここで用が足ります。また、古書市、オーディオ市というたのしみもあるのさ。掘り出し物を見つけて下さい。

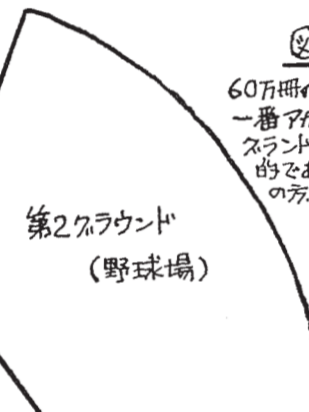
### 誠志館



1、5号館があり、4時に3、5号館はクラブに開放されている。クラブをまだ決めていないあなた。ここに行けば、必ずお声がかかる筈です。又学生課、厚生課もあるのさ。下宿、アルバイト情報もこちらでどうぞ。

### 図書館本館

60万冊の蔵書を収める本館は、キャンパスで一番アツクワなところ。眼下にスタンプを並べた姿は、学徴の印であります。法、文社の方特に御利用下さい。



### 第2クラウンド (野球場)

### 法文食堂



関大の奥の院、花の法文、といつて華々しい名を誇っている学舎。なんと、ここには女子が多いのだ。

### 法・文

### 法文学部研究室

言語学問題研究室

### 大学院

岩崎記念館  
東西学術研究所  
考古学資料室

## 昭和54年度行事予定

### ◆学務関係◆

- 4月1日 学年初期開始
- 2日 学部在学成績発表・各種届出事務(1日未定)
- 7日 大学院在学成績発表
- 9日 学部入学式・学部新入生指導行事期間(11日未定)
- 10日 大学院入学式
- 11日 大学院履修届受付(12日未定)
- 12日 学部授業開始
- 14日 大学院授業開始
- 15日 大学院修士論文計開書(9月期生)締切
- 16日 大学院修士論文計開書(9月期生)締切
- 6月1日 本学創立記念日
- 6日 大学院外国語学力認定試験届受付(6日未定)
- 20日 大学院外国語学力認定試験
- 7月1日 夏期休業(6月31日未定)
- 31日 大学院修士論文(9月期生)提出締切
- 9月1日 学部(1)前期授業終了
- 19日 学部(1)前期試験(30日未定)予定
- 22日 学部(1)前期試験(30日未定)予定
- 27日 大学院修士論文(9月期生)提出締切
- 28日 大学院前期授業終了
- 30日 学部前期終了・大学院前期終了
- 10月1日 後期開始・授業開始
- 16日 大学院修士論文計開書(3月期生)締切
- 11月1日 本学創立記念日
- 5日 大学院外国語学力認定試験届受付(6日未定)
- 20日 大学院外国語学力認定試験
- 12月1日 冬期休業(1月7日未定)

### ◆就職関係◆

- 4月1日 求職届受付(1) 第1部(法学部)
- 17日 " 第2部(工学部)
- 17日 " 第1部(文学部)
- 18日 " 第2部(社会学部)
- 17日 英文タイポ講習会(第1部)開始(5月24日)
- 22日 就職模範校実施
- 22日 就職説明会開催
- 5月10日 就職(学)面接開始(6月1日)
- 26日 英文タイポ講習会(第2部)開始(6月10日)
- 6月1日 就職説明会開催

### ◆厚生課関係◆

- 4月1日 日本育英会特別奨学生手続採用進捗届提出日
- 10日 奨学金制説明会(法・文・社)新生
- 11日 同右(経・商・工)新生
- 12日 日本育英会・関西大学奨学生募集説明会(2年次以上大学院)
- 13日 日本育英会特別奨学生(予約)手続説明会
- 上位生次生の下宿開始(各種地方団体・財団奨学生出願手続)
- 5月1日 アルバイト登録受付開始(5月1日未定)
- 下旬 奨学生出願者届提出(届出提出)
- 5月1日 アルバイト登録受付開始(5月初旬未定)
- 中旬 日本育英会奨学生奨学金受領書確認
- 中旬 奨学生出願者届提出(下旬未定)
- 下旬 日本育英会特別奨学生(予約)採用説明会
- 下旬 日本育英会奨学生出願者届提出(2・3・4年次)
- 6月中旬 日本育英会奨学生出願者届提出(1年次)
- 7月中旬 奨学生合同サイン
- 9月中旬 日本育英会奨学生採用説明会(特選・一般)1年次大学院)
- 中旬 日本育英会奨学生(1年次2次募集)関大奨学生採用説明会
- 下旬 日本育英会奨学生(大学院予約採用)募集説明会(予定)
- 10月中旬 日本育英会奨学生奨学金受領書確認
- 中旬 日本育英会奨学生(1年次2次募集)出願者届提出(届出提出)
- 下旬 日本育英会奨学生(1年次2次募集)大学院予約採用出願者届提出
- 11月中旬 日本育英会奨学生(1月2次募集)大学院予約採用推薦書
- 下旬 日本育英会奨学生奨学金受領書確認
- 12月中旬 日本育英会奨学生奨学金受領書確認
- 12月1日 関大の家庭用特別期間の利用申込受付開始(予定)
- 下旬 日本育英会奨学生(4月上旬未定)入寮出願の受付
- 21日 黒瀬山の家庭用特別利用取扱期間(55年)1月7日未定

### ◆保健管理センター関係◆

- 1月中旬 在学生の下宿開始(新入生の受入準備のため)(4月上旬未定)
- 上旬 日本育英会奨学生奨学金受領書確認
- 中旬 日本育英会奨学生2次採用説明会
- 2月中旬 新生の下宿取扱(4月上旬未定)入寮出願の受付(新入生)
- 3月中旬 入寮出願者の第1次選考(書類)
- 下旬 入寮出願者の第2次選考(健康診断・面談)
- 4月1日 学部第1部・大学院男子学生健康診断(4月21日未定)
- 千里山体育館
- 5月1日 学部第2部・大学院女子学生健康診断(5月4日未定)
- 保健管理センター
- 7日 学部第2部男子学生健康診断(10日未定)
- 14日 教職員健康診断(20日未定)
- 31日 天六職員健康診断(天六第2診療所)



法律は正義の実現をせよと経済合理性を追求するとの二つの論が、一面の真理ではある。アダム・スミスの時代には神の「見えざる手」が合理性を正しく結びつけたものであり、現在そんな神は持たず、むしろ逆に合理性は不正義をもたらす。最近よく法律の世界で論じられる親会社の下請従業員にたいする使用者責任の問題も、その例にもれない。

経済を觀察しているものからすれば、下請制度そのものは本来合理性の所産である。一企業がその全生産工程を一貫して営むことは、合理的であることもあれば、逆に無駄な投資を強いて非合理的なものもある。後者の場合にその非合理的な工程部分を他企業に委ねるならば、それを委ねた企業は製品をより安く消費者に供給でき、委ねられた企業は自己の生産を拡大し雇用を安定増大せしめる

小林英夫



ことが出来る。これは親会社と下請企業をともにした方が社会を利するものであり、経済合理性は正義にかなう。スミス時代の神はいまも存在する。だが、いかなる神も現在真面目にうけるものはあるまい。資本力とすべからず（親会社と同等またはそれ以上の）、技術をもつ自立する企業でないかぎり、いまのまた一種の分業の利益を生み出すに困難である。親会社として下請制度とは、経済変動上のリスクの回避（不況期には契約を削減ないし打ち切れる）と「コスト・ダウン」(下請企業の低廉な労働力の利用)のための手段である。これは常識化してあり、そのために親会社は既存企業のみならず、新設企業からの出資も受け入れる。下請企業は親会社からの受注が自己の命運を左右し、また下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

# 下請親会社の「みたる」非法律家の従業員にたいする使用者責任論

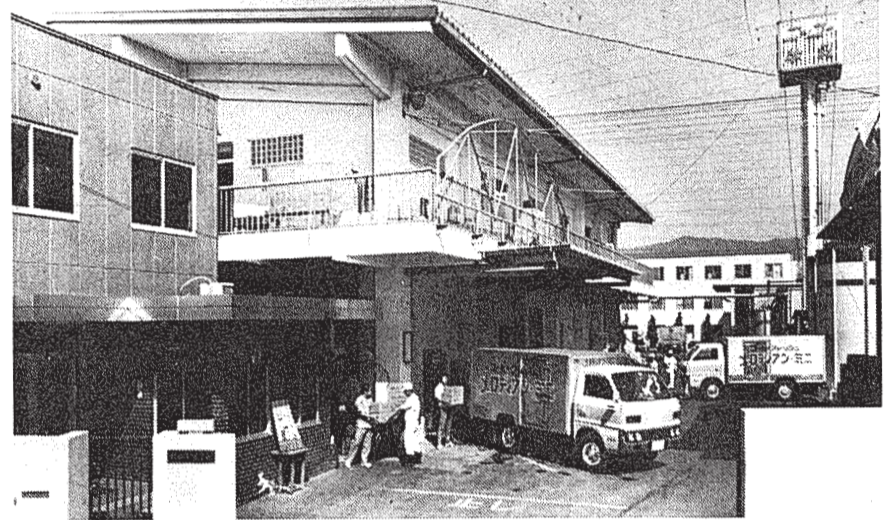
会社は下請企業をどう儲けさせて従業員をうまく受け流すことを求める。結局のところ下請従業員は、直接（法律上の）使用者である。問題は下請企業の従業員が、労働者としての当事者能力が、労働者としての親会社からの労働について親会社の従業員としての印象ないし信念をもつにいたらないこと、なんとしても正義に反する。賃金のかかる不利益（経済）と否まらざるに負い違つて、下請従業員は感ずる不正義の

従業員要求をうまく受け流すことになった。形式と実態のずれを是正するうえで、この判断はたしかに意味がある。問題は、この判断が、労働現場に移動するからである。労働現場に移動すれば、親会社の作業現場に赴かねばならない。親会社が下請企業に認められる請負契約（営業および契約の自由）にかかわるが、サービス産業に許されなれない道徳はないとの主張も可能である。最近のように第三次産業が拡大し、とくに民間放送の発展によるような教育的、文化的に学識しているような知識階級別として、サービスの一部分を請負する、現実には無償である。親会社は下請企業を支配する立場が巧妙に全体と切り離しえなから、下請従業員はサービス全体を生産も含致している部分もあるのだが

実態は多分そのとおりかもしれぬが、それはサービス産業の特殊性によるものであって、だからといって製造業に認められる請負契約（営業および契約の自由）にかかわるが、サービス産業に許されなれない道徳はないとの主張も可能である。最近のように第三次産業が拡大し、とくに民間放送の発展によるような教育的、文化的に学識しているような知識階級別として、サービスの一部分を請負する、現実には無償である。親会社は下請企業を支配する立場が巧妙に全体と切り離しえなから、下請従業員はサービス全体を生産も含致している部分もあるのだが

実態は多分そのとおりかもしれぬが、それはサービス産業の特殊性によるものであって、だからといって製造業に認められる請負契約（営業および契約の自由）にかかわるが、サービス産業に許されなれない道徳はないとの主張も可能である。最近のように第三次産業が拡大し、とくに民間放送の発展によるような教育的、文化的に学識しているような知識階級別として、サービスの一部分を請負する、現実には無償である。親会社は下請企業を支配する立場が巧妙に全体と切り離しえなから、下請従業員はサービス全体を生産も含致している部分もあるのだが

実態は多分そのとおりかもしれぬが、それはサービス産業の特殊性によるものであって、だからといって製造業に認められる請負契約（営業および契約の自由）にかかわるが、サービス産業に許されなれない道徳はないとの主張も可能である。最近のように第三次産業が拡大し、とくに民間放送の発展によるような教育的、文化的に学識しているような知識階級別として、サービスの一部分を請負する、現実には無償である。親会社は下請企業を支配する立場が巧妙に全体と切り離しえなから、下請従業員はサービス全体を生産も含致している部分もあるのだが



「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

「みたる」にすぎないであろう。そこでこれからは不正義の除去を使用者（下請企業）の経営者にも求めるが、使用者（親会社）にも求めるべきである。また、下請代金（親会社からの受注）が滞り（遅延）する場合は、親会社にたいして大きな負担となる。また、下請代金の滞り（遅延）は親会社にたいして大きな負担となる。

### 新刊紹介

文学部教授 大庭 篤著  
「木簡」(学生社・一七〇〇円)

中国の歴史、特に漢代史研究者として国際的に有名な大庭篤先生が、木簡学の入門書として「木簡」を出版された。

「中国では、日常の文字を書く材料として、木や竹のふたを使用していた。それをわが国では現在、木簡と総称している」という平易な文章で解説から始まり、木簡の形式、用途、発掘史、木簡の内容、日本の木簡、木簡研究の将来など十一項目にわたって記述されている。内容はかなり学術的であり、専門的である。

中国では「武蔵漢簡」など多くの簡牘が出土し、貴重な史料として国際的な研究がすすまれている。これに対して、わが国での木簡研究は極めて少ない。

文学部教授 越川正著  
「居間て書い」  
た文学論」(中央出版・二〇〇〇円)

本書は考古学、古代史研究者はいうに及ばず、おまも歴史研究に関心のある者の必読の書として、もってこそべきである。また、本書によって若き学生が啓蒙されること大である。

(細平 謙敬)

文学部教授 越川正著  
「居間て書い」  
た文学論」(中央出版・二〇〇〇円)

本書は考古学、古代史研究者はいうに及ばず、おまも歴史研究に関心のある者の必読の書として、もってこそべきである。また、本書によって若き学生が啓蒙されること大である。

(細平 謙敬)

M・キヤノン著  
経済学助教授 東井正美  
「農業経済学」(三友社・一四〇〇円)

本書は単なる学書ではない。入門に書かれて、大学人に不可欠な清新で柔軟な精神を失いかけた若者のために、手紙で効果的かつ効果的でもある。

(大谷 豊昭)

M・キヤノン著  
経済学助教授 東井正美  
「農業経済学」(三友社・一四〇〇円)

本書は単なる学書ではない。入門に書かれて、大学人に不可欠な清新で柔軟な精神を失いかけた若者のために、手紙で効果的かつ効果的でもある。

(大谷 豊昭)

### 開かれた精神

掛川トミ子

何が起こったのか、なぜ起こったのか、どのようにして起こったのか、を語り、理解するのにも、適切な時代と、彼女は考えたのである。その問いに答えた本書は、逮捕・亡命の経験と十数年に及ぶ思索が結晶した叙事詩ともいえよう。極限の悪の分析を通じて人間の本質をかくも鮮やかに表現し得たというところに私はふいふ感動を覚える。

丸山真男「戦中と戦後の間」(社会学部助教授)

### 開かれた精神

掛川トミ子

何が起こったのか、なぜ起こったのか、を語り、理解するのにも、適切な時代と、彼女は考えたのである。その問いに答えた本書は、逮捕・亡命の経験と十数年に及ぶ思索が結晶した叙事詩ともいえよう。極限の悪の分析を通じて人間の本質をかくも鮮やかに表現し得たというところに私はふいふ感動を覚える。

丸山真男「戦中と戦後の間」(社会学部助教授)

### 開かれた精神

掛川トミ子

何が起こったのか、なぜ起こったのか、を語り、理解するのにも、適切な時代と、彼女は考えたのである。その問いに答えた本書は、逮捕・亡命の経験と十数年に及ぶ思索が結晶した叙事詩ともいえよう。極限の悪の分析を通じて人間の本質をかくも鮮やかに表現し得たというところに私はふいふ感動を覚える。

丸山真男「戦中と戦後の間」(社会学部助教授)

### 開かれた精神

掛川トミ子

何が起こったのか、なぜ起こったのか、を語り、理解するのにも、適切な時代と、彼女は考えたのである。その問いに答えた本書は、逮捕・亡命の経験と十数年に及ぶ思索が結晶した叙事詩ともいえよう。極限の悪の分析を通じて人間の本質をかくも鮮やかに表現し得たというところに私はふいふ感動を覚える。

丸山真男「戦中と戦後の間」(社会学部助教授)

### 編集後記

新入生諸君、御入学おめでとう。諸君が本学で勉学をはじめられるにあたり、少しでも役立つように、本号を編集しました。

「空若竹のやみなし」(山頭火)  
「さあ、これからの四年間、諸君の大きな発展を期待しています。」(尾崎 穂)